

GA327

国際社会演習一人種・民族・宗教紛争研究一

中島 成久

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは担当者が学部の授業で行っている「文化人類学 I, II ——人種・民族問題入門」、「国家と民族——宗教と国民統合／非統合」、「地域紛争とエスニシティ——インドネシアのポストコロナリズム」で展開した議論を、さらに詳しく検討することを目指している。

現代世界で深刻な問題となっている人種・民族・宗教に絡む紛争を、グローバル化と国民国家、新自由主義、文明の衝突、ポストコロナリズムといった理論的な枠組みの中で検討する。

理論から個別の事例に入ることも可能だが、具体的な事例から、さらに大きな理論的な体系に進むことも可能である。

【到達目標】

このゼミで学ぶ学生は、人種・民族・宗教に関する基礎知識を必要とされているが、閉じた小さな世界を対象とするのではなく、特に紛争という形で現れてきた現象を、国家とか、多国籍企業（資本）、歴史（世界システム論）などとの関係性のなかで位置づけることが重要となる。

担当者の授業を通してわかるように、担当者はアメリカ、東南アジア（インドネシア）、日本の事例に通じているが、受講者はそうした事例分析を参照しつつも、自分の関心のある地域の問題を扱うことができる。

【授業の進め方と方法】

授業は共通テキストの講読、国際文化情報学会での発表、それに個人の研究発表という3つの課題の組み合わせで進められる。担当者の専門上、インドネシアの事例研究を多く紹介するが、受講者はそこで展開された分析枠組みを他の事例に適用して考えることができる。

春学期の8回の授業を使って、このゼミに関する基本テキスト（インドネシア研究が中心）を共同で読み、問題点を深める。国際文化情報学会では、3年生にはポスター発表、4年生には個人の研究発表を行ってらるので、その準備を進める作業を行う。さらに、個人の研究発表では、自分の最も関心のある問題について、深く掘り下げた研究を行ってもらい、最終的にはまとまった論文を書くことを目指す。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	顔合わせ、メンバー自己紹介、ゼミ内容の説明、担当の説明、発表の順番の決定など
第2回	国家と民族①	水本達也『インドネシア——多民族という宿命』の第1章、第2章、第3章
第3回	国家と民族②	水本達也『インドネシア——多民族という宿命』の第4章、5章
第4回	開発と環境①	中島成久「アブラヤシ・プランテーション労働者をめぐるヘゲモニー関係」関係『異文化』18号の前半
第5回	開発と環境②	中島成久「アブラヤシ・プランテーション労働者をめぐるヘゲモニー関係」関係『異文化』18号の後半
第6回	開発と環境③	中島成久「開発で危機に瀕するクリンチ・スプラット国立公園」『インドネシアニュースレター』第93号

第7回	グローバル化①	桜井啓子『イスラーム圏で働く』第1章、第2章
第8回	グローバル化②	桜井啓子『イスラーム圏で働く』第3章、第4章
第9回	グローバル化③	桜井啓子『イスラーム圏で働く』第5章、第6章
第10回	個人研究発表①	3年生2名の研究発表
第11回	個人研究発表②	3年生2名の研究発表
第12回	個人研究発表③	3年生2名の研究発表
第13回	個人研究発表④	3年生2名の研究発表
第14回	個人研究発表⑤	3年生2名の研究発表
第15回	まとめ	春学期に学んだことの再検討、夏休み合宿のプランニング、秋学会のテーマなど

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	国際文化情報学会に向けての対策①	研究発表とポスター発表の発表者と発表内容の絞り込み①
第2回	国際文化情報学会に向けての対策②	研究発表とポスター発表の発表者と発表内容の絞り込み②
第3回	国際文化情報学会に向けての対策③	研究発表とポスター発表の発表者と発表内容の絞り込み③
第4回	個人研究発表①	4年生の研究発表①
第5回	個人研究発表②	4年生の研究発表②
第6回	個人研究発表③	4年生の研究発表③
第7回	個人研究発表④	4年生の研究発表④
第8回	個人研究発表⑤	3年生2回目の研究発表①
第9回	個人研究発表⑥	3年生2回目の研究発表②
第10回	国際文化情報学会への対策④	研究発表とポスター発表の発表者と発表内容の絞り込み④
第11回	個人研究発表⑦	3年生2回目の研究発表③
第12回	個人研究発表⑧	3年生2回目の研究発表④
第13回	個人研究発表⑨	3年生2回目の研究発表⑤
第14回	個人研究発表⑩	3年生2回目の研究発表⑥
第15回	まとめ	秋学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストを十分読みこなすこと
- 2 インターネットなどで関連する文献を探すこと
- 3 図書館などで関連する文献を調べ、読み、検討すること
- 4 自分のテーマが何であり、それを深めるには何が必要かを常日頃考えること

【テキスト（教科書）】

水本達也 『インドネシア 多民族社会という宿命』中公新書、2006年
 中島成久 「アブラヤシ・プランテーション労働者をめぐるヘゲモニー関係」 『異文化』18号、2017年
 中島成久 「開発で危機に瀕するクリンチ・スプラット国立公園」『インドネシア ニュースレター』第93号、JANNI、2017年
 桜井啓子 『イスラーム圏で働く——暮らしとビジネスのヒント』岩波新書、2015年
 加納啓良 『インドネシア検定』めこん、2011年

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミは単なる平常点(40%)だけではなく、日ごろの授業への程度主体的に参加したかどうか(20%)、学会発表などでどの程度インシアティブをとって参加したかどうか(20%)、さらにレポートの内容(20%)によって総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでの議論をどうすれば活発にできるか、テーマの選択、テキストの選択などを工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

発表ではパワーポイントを使うこと、テキストの情報だけではなく、テキストに書かれていないことがらにも関心を向け、「読みこなす」こと。